

テーマ「第3期地域福祉計画について」

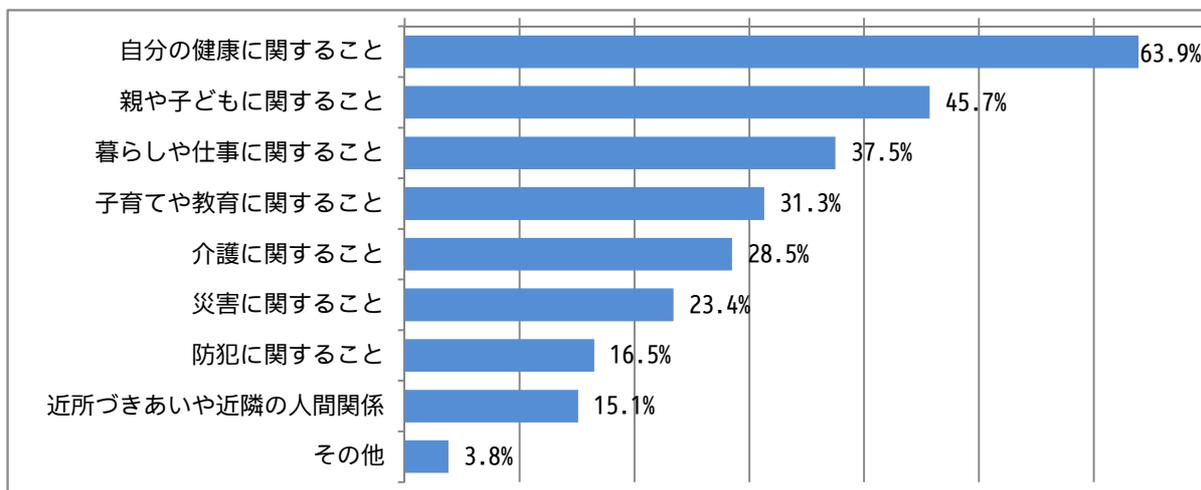
地域福祉計画は、社会福祉法第107条の規定に基づき、住民や社会福祉事業者、活動団体などの意見を踏まえ、地域福祉の推進に関する事項を一体的に定める計画です。

つきましては、第3期地域福祉計画の策定にあたり、市民の皆様の地域福祉や保健福祉行政に対する意識や考え方、ニーズ等を分析・把握するため、アンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

- 調査期間 平成29年8月7日(月)～8月16日(水) (10日間)
- モニター数 340名(男性 157名 女性 183名)
- 回答者数 289名(男性 138名 女性 151名)
- 回答率 85.0%

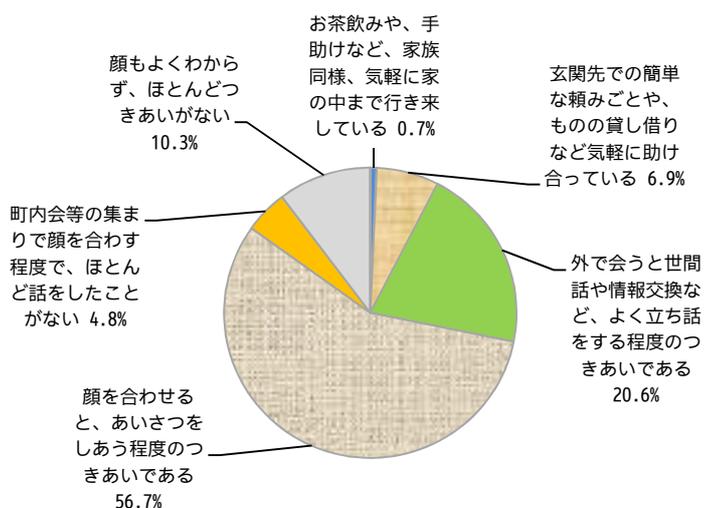
問1 あなたは、毎日の暮らしの中でどのようなことで困ったり、不安に思ったりしていますか？あてはまるものを3つまで選んでください。【3つまで選択可】

選択肢	回答率
自分の健康に関すること	63.9%
親や子どもに関すること	45.7%
暮らしや仕事に関すること	37.5%
子育てや教育に関すること	31.3%
介護に関すること	28.5%
災害に関すること	23.4%
防犯に関すること	16.5%
近所づきあいや近隣の人間関係	15.1%
その他	3.8%



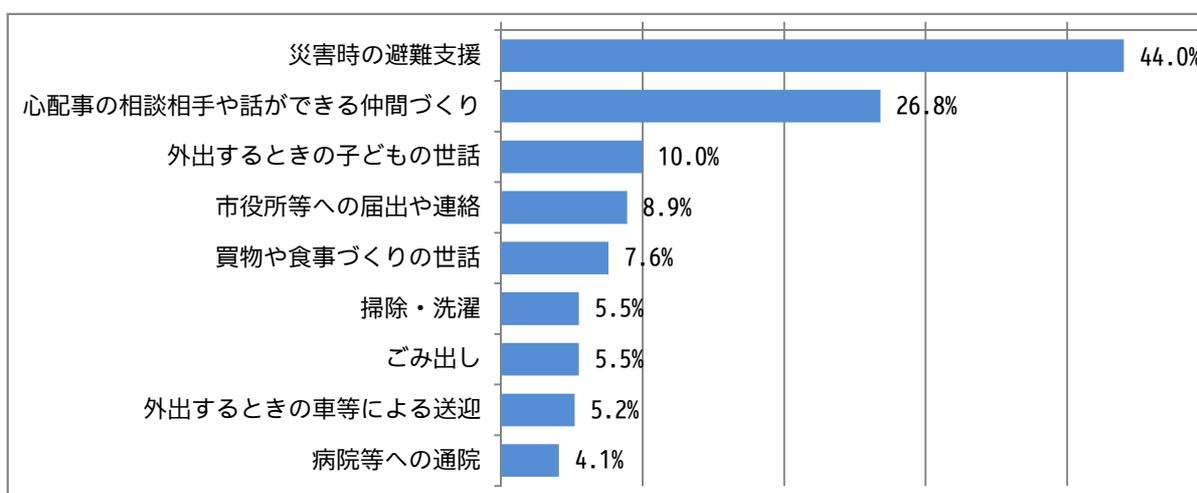
問2 あなたは隣近所の人とどの程度おつきあいがありますか？あてはまるものを1つ選んでください。【1つ選択】

選択肢	回答率
お茶飲みや、手助けなど、家族同様、気軽に家の中まで行き来している	0.7%
玄関先での簡単な頼みごとや、ものの貸し借りなど気軽に助け合っている	6.9%
外で会うと世間話や情報交換など、よく立ち話をする程度のつきあいである	20.6%
顔を合わせると、あいさつをしあう程度のつきあいである	56.7%
町内会等の集まりで顔を合わす程度で、ほとんど話をしたことがない	4.8%
顔もよくわからず、ほとんどつきあいがいい	10.3%
その他	0.0%



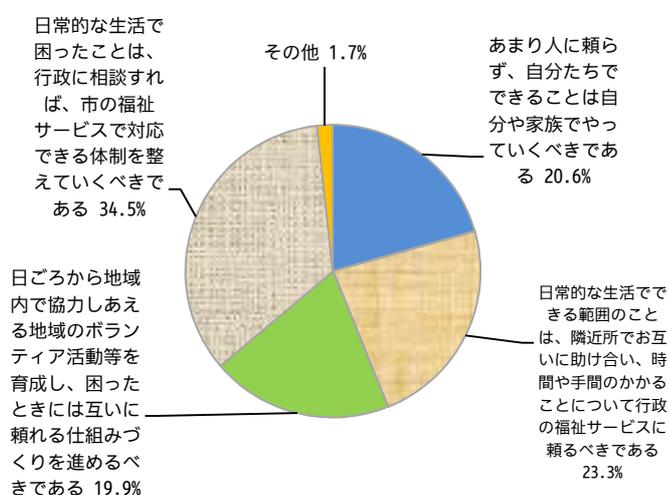
問3 あなたが手伝ってほしいと思っていることがありますか？あてはまるものを全て選んでください。【複数選択可】

選択肢	回答率
災害時の避難支援	44.0%
心配事の相談相手や話ができる仲間づくり	26.8%
外出するときの子どもの世話	10.0%
市役所等への届出や連絡	8.9%
買物や食事づくりの世話	7.6%
掃除・洗濯	5.5%
ごみ出し	5.5%
外出するときの車等による送迎	5.2%
病院等への通院	4.1%



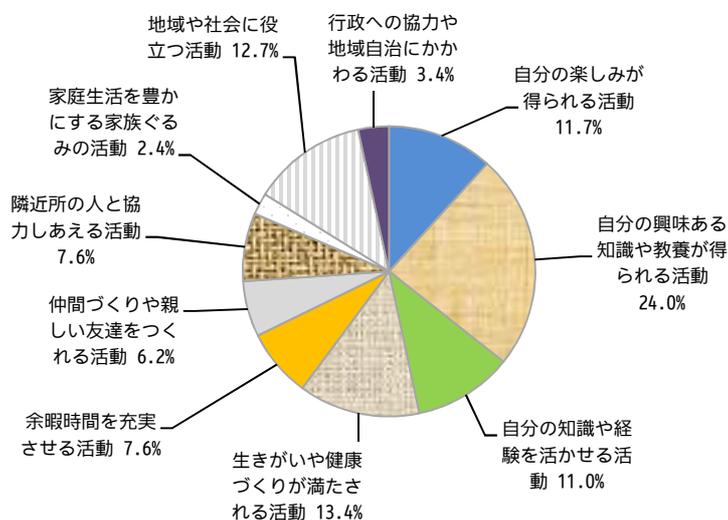
問4 あなたは、地域生活のあり方として最も大切なことはどのようなことだとお考えですか？あてはまるものを1つ選んでください。【1つ選択】

選択肢	回答率
あまり人に頼らず、自分たちでできることは自分や家族でやっていくべきである	20.6%
日常的な生活でできる範囲のことは、隣近所でお互いに助け合い、時間や手間のかかることについて行政の福祉サービスに頼るべきである	23.3%
日ごろから地域内で協力しあえる地域のボランティア活動等を育成し、困ったときには互いに頼れる仕組みづくりを進めるべきである	19.9%
日常的な生活で困ったことは、行政に相談すれば、市の福祉サービスで対応できる体制を整えていくべきである	34.5%
その他	1.7%



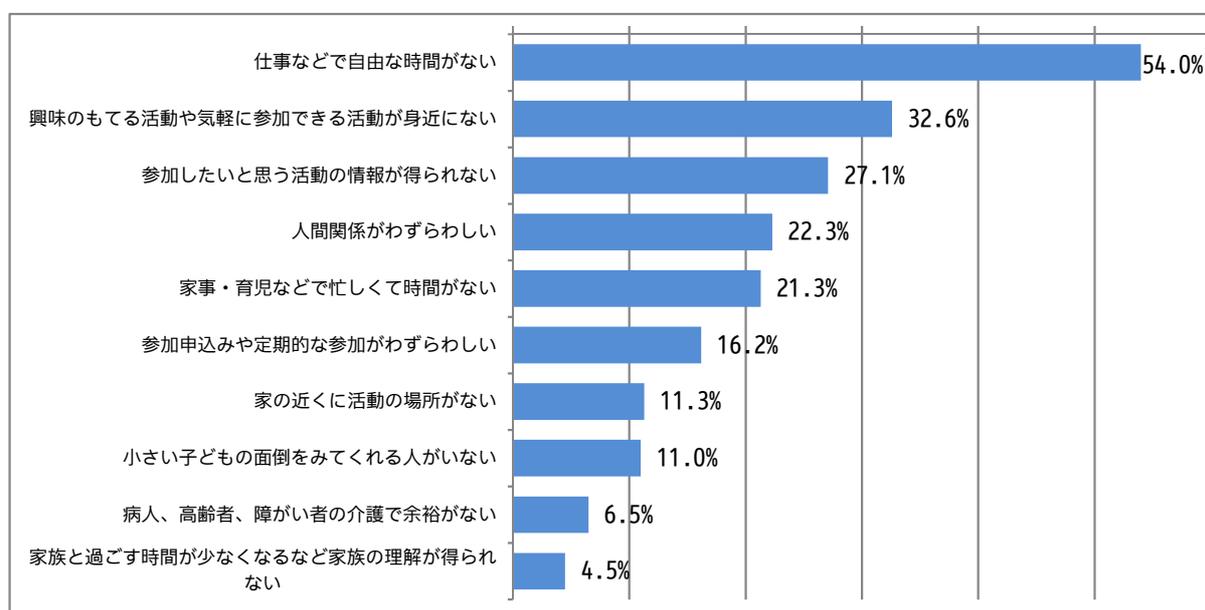
問5 あなたがお住まいの地域で地域活動をする場合、どのような活動に参加したいと思いますか？あてはまるものを1つ選んでください。【1つ選択】

選択肢	回答率
自分の楽しみが得られる活動	11.7%
自分の興味ある知識や教養が得られる活動	24.0%
自分の知識や経験を活かせる活動	11.0%
生きがいや健康づくりが満たされる活動	13.4%
余暇時間を充実させる活動	7.6%
仲間づくりや親しい友達をつくれる活動	6.2%
隣近所の人と協力しあえる活動	7.6%
家庭生活を豊かにする家族ぐるみの活動	2.4%
地域や社会に役立つ活動	12.7%
行政への協力や地域自治にかかわる活動	3.4%



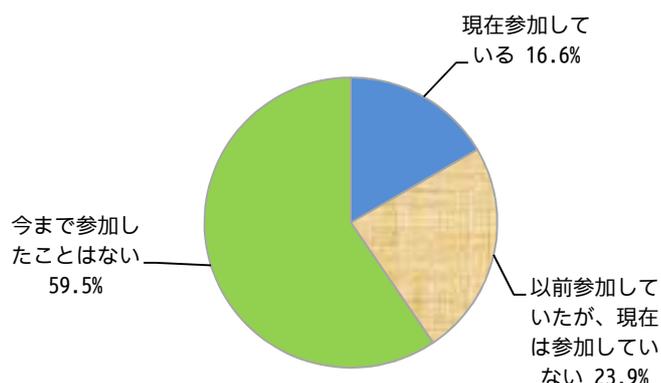
問6 あなたが地域での地域活動に参加しようとした場合に、支障となることがありますか？あてはまるものを全て選んでください。【複数選択可】

選択肢	回答率
仕事などで自由な時間がない	54.0%
興味のもてる活動や気軽に参加できる活動が身近にない	32.6%
参加したいと思う活動の情報が得られない	27.1%
人間関係がわずらわしい	22.3%
家事・育児などで忙しくて時間がない	21.3%
参加申込みや定期的な参加がわずらわしい	16.2%
家の近くに活動の場所がない	11.3%
小さい子どもの面倒をみてくれる人がいない	11.0%
病人、高齢者、障がい者の介護で余裕がない	6.5%
家族と過ごす時間が少なくなるなど家族の理解が得られない	4.5%



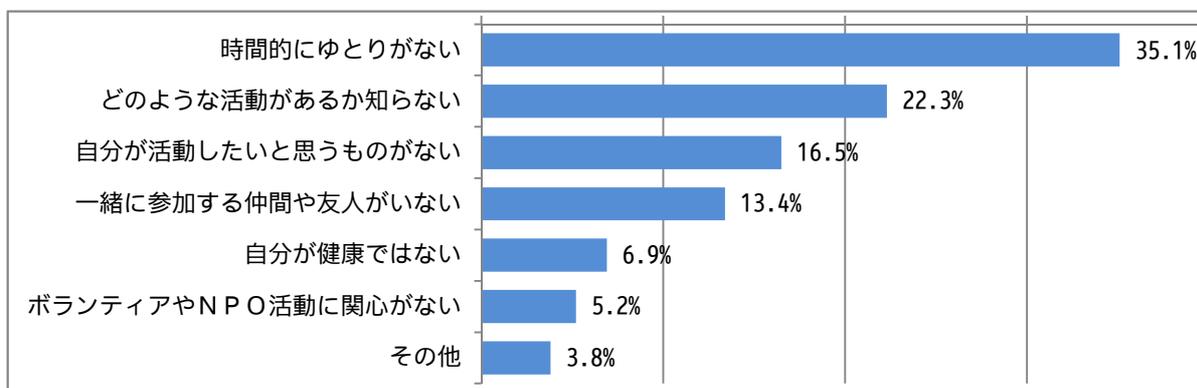
問7 あなたはこれまでにボランティア活動やNPO活動に参加したことがありますか？
あてはまるものを1つ選んでください。【1つ選択】

選択肢	回答率
現在参加している	16.6%
以前参加していたが、現在は参加していない	23.9%
今まで参加したことはない	59.5%



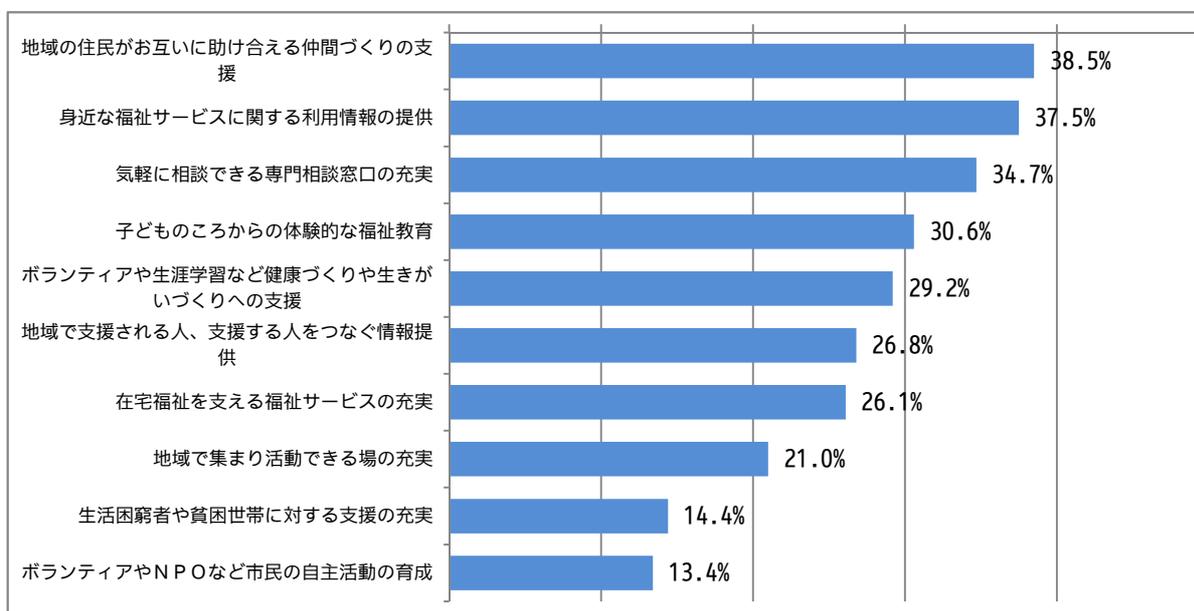
問8 問7で「以前参加していたが、現在は参加していない」又は「今まで参加したことはない」を選択した方に伺います。その理由としてどんなことがありますか？あてはまるものを全て選んでください。【複数選択可】

選択肢	回答率
時間的にゆとりがない	35.1%
どのような活動があるか知らない	22.3%
自分が活動したいと思うものがない	16.5%
一緒に参加する仲間や友人がいない	13.4%
自分が健康ではない	6.9%
ボランティアやNPO活動に関心がない	5.2%
その他	3.8%



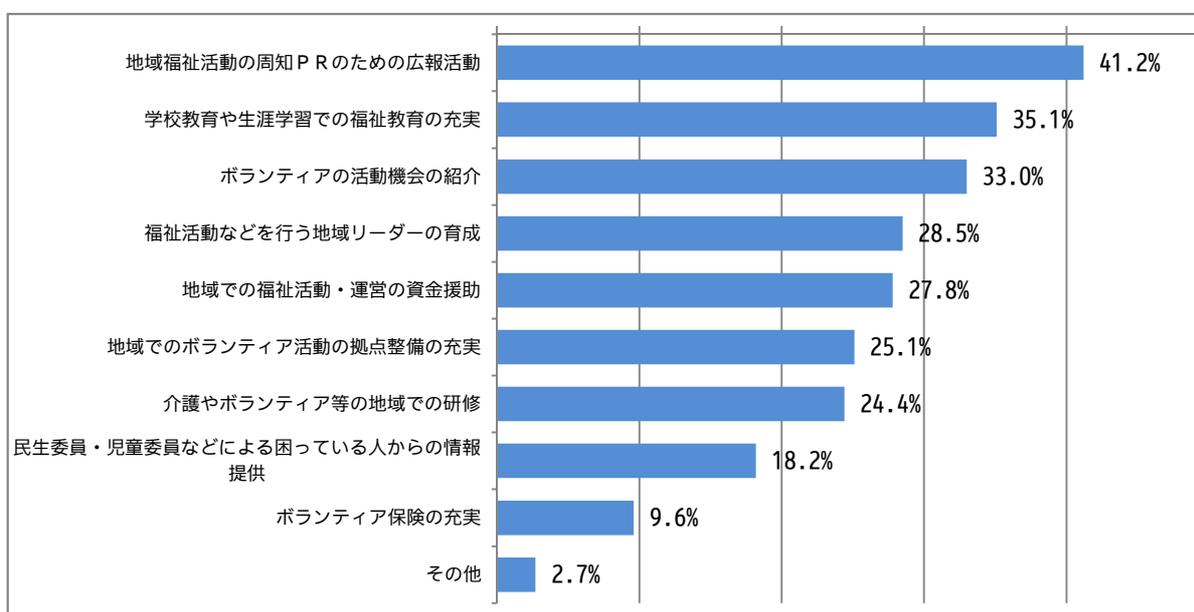
問9 これからの福祉で何に重点をおくべきだと考えていますか？あてはまるものを全て選んでください。【複数選択可】

選択肢	回答率
地域の住民がお互いに助け合える仲間づくりの支援	38.5%
身近な福祉サービスに関する利用情報の提供	37.5%
気軽に相談できる専門相談窓口の充実	34.7%
子どものころからの体験的な福祉教育	30.6%
ボランティアや生涯学習など健康づくりや生きがいづくりへの支援	29.2%
地域で支援される人、支援する人をつなぐ情報提供	26.8%
在宅福祉を支える福祉サービスの充実	26.1%
地域で集まり活動できる場の充実	21.0%
生活困窮者や貧困世帯に対する支援の充実	14.4%
ボランティアやNPOなど市民の自主活動の育成	13.4%



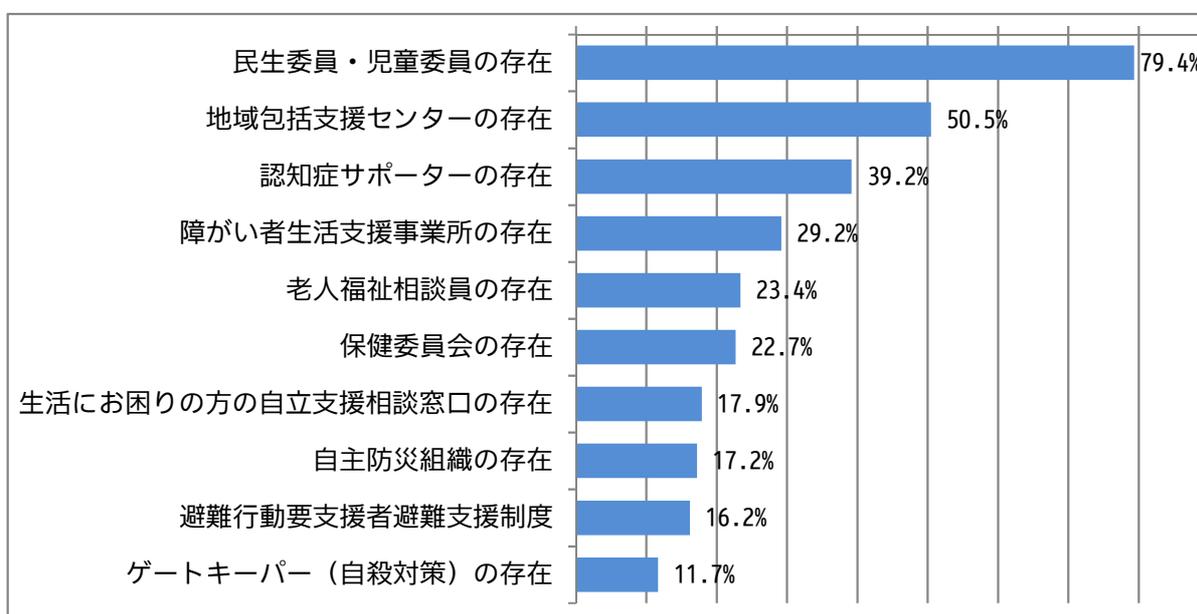
問10 地域内で助け合い活動を促進するためには、どのようなことが重要だと思いますか？あてはまるものを全て選んでください。【複数選択可】

選択肢	回答率
地域福祉活動の周知PRのための広報活動	41.2%
学校教育や生涯学習での福祉教育の充実	35.1%
ボランティアの活動機会の紹介	33.0%
福祉活動などを行う地域リーダーの育成	28.5%
地域での福祉活動・運営の資金援助	27.8%
地域でのボランティア活動の拠点整備の充実	25.1%
介護やボランティア等の地域での研修	24.4%
民生委員・児童委員などによる困っている人からの情報提供	18.2%
ボランティア保険の充実	9.6%
その他	2.7%



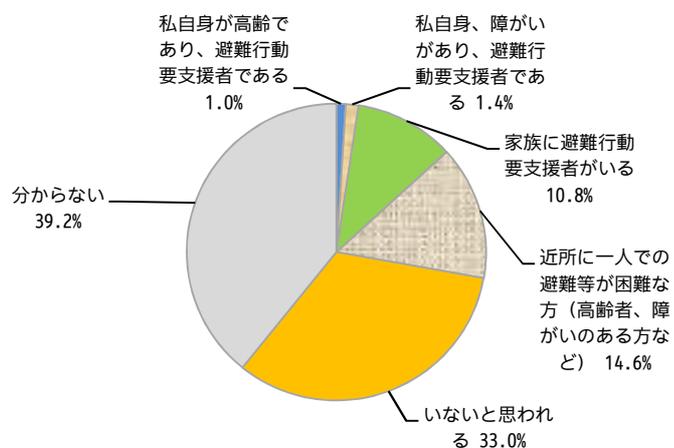
問11 次の制度のうち、あなたが知っている制度のものを全て選んでください。
【複数選択可】

選択肢	回答率
民生委員・児童委員の存在	79.4%
地域包括支援センターの存在	50.5%
認知症サポーターの存在	39.2%
障がい者生活支援事業所の存在	29.2%
老人福祉相談員の存在	23.4%
保健委員会の存在	22.7%
生活にお困りの方の自立支援相談窓口の存在	17.9%
自主防災組織の存在	17.2%
避難行動要支援者避難支援制度	16.2%
ゲートキーパー（自殺対策）の存在	11.7%



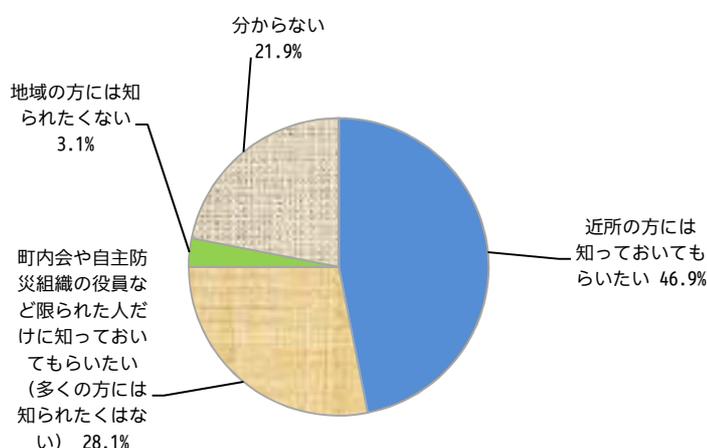
問12 あなたの周り（家族や近所）には、避難行動要支援者がいますか？あてはまるものを1つ選んでください。【1つ選択】
 ※避難行動要支援者：地震などの災害時に、高齢者や障がい者など、一人で避難できない方

選択肢	回答率
私自身が高齢であり、避難行動要支援者である	1.0%
私自身、障がいがあり、避難行動要支援者である	1.4%
家族に避難行動要支援者がいる	10.8%
近所に一人での避難等が困難な方（高齢者、障がいのある方など）	14.6%
いないと思われる	33.0%
分からない	39.2%



問13 問12で「私自身が高齢であり、避難行動要支援者である」「私自身、障がいがあり、避難行動要支援者である」「家族に避難行動要支援者がいる」を選択した方に伺います。郡山市では災害が起きたときに避難の支援が必要な方の名簿を作成していますが、避難行動要支援者（あなた又は御家族）の個人情報を地域支援者（町内会、自主防災組織、民生委員など）が共有し、いざというときに備える取組みについて、どのように考えますか？あてはまるものを1つ選んでください。
【1つ選択】

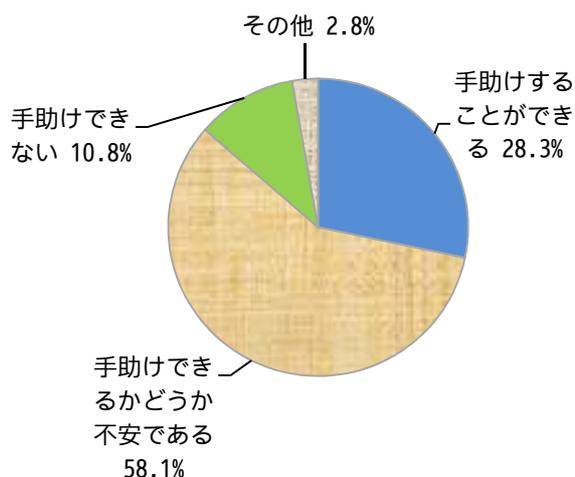
選択肢	回答率
近所の方には知っておいてもらいたい	46.9%
町内会や自主防災組織の役員など限られた人だけに知っておいてもらいたい（多くの方には知られたくはない）	28.1%
地域の方には知られたくない	3.1%
分からない	21.9%
その他	0.0%



- ※ 「近所の方には知っておいてもらいたい」を選択した方の主な理由
- ・避難が必要になった場合は近所の方が頼りだから
 - ・家族に高齢者がいる事を普段から知ってもらえていて、東日本大震災の際に近所の方が直ぐに駆けつけてくれたため
 - ・知ってもらうことが初めの一步
- ※ 「町内会や自主防災組織の役員など限られた人だけに知っておいてもらいたい（多くの方には知られたくはない）」を選択した方の主な理由
- ・プライバシーに関わるから
 - ・プライバシーなので誰にでもは知られたくない
- ※ 「分からない」を選択した方の主な理由
- ・近所付き合いがないので
 - ・その境遇になってみないと、実感がわからない

問14 問12で「近所に一人での避難等が困難な方（高齢者、障がいのある方など）がいる」「いないと思われる」「分からない」を選択した方に伺います。あなたは災害時に、近隣にお住まいの避難行動要支援者の方に対して、手助けすることができますか？あてはまるものを1つ選んでください。【1つ選択】

選択肢	回答率
手助けすることができる	28.3%
手助けできるかどうか不安である	58.1%
手助けできない	10.8%
その他	2.8%



※「手助けすることができる」を選択した方の主な理由

- ・近所の関係が一番役立つと思う
- ・自分が手助けできることがあると思われるから
- ・非常時はお互い助け合うべきである
- ・支援内容により可能と思う
- ・70歳以上だが、気力体力があると思うから

※「手助けできるかどうか不安である」を選択した方の主な理由

- ・何をどうしていいのか分からない
- ・近所付き合いがないので
- ・研修の経験もないから
- ・どのような手助けをしていいか分かりません。近隣に手助けを必要としている人がいるのか分かりません
- ・自分も体力に限界がある

※「手助けできない」を選択した方の主な理由

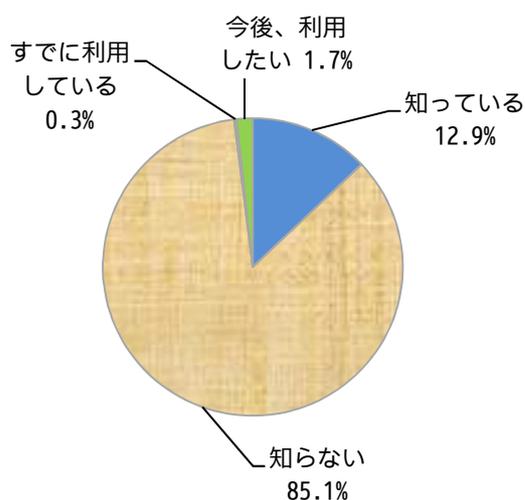
- ・子どもなど家族が多くて、人に構える状況ではない
- ・体調がおもわしくないので、アテにされると困る
- ・自分自身の行動のみで、他を見る余裕は無いと思うから

※「その他」を選択した方の主な理由

- ・全く交流がないから、手助けできない、したくない
- ・自分と家族の状況次第

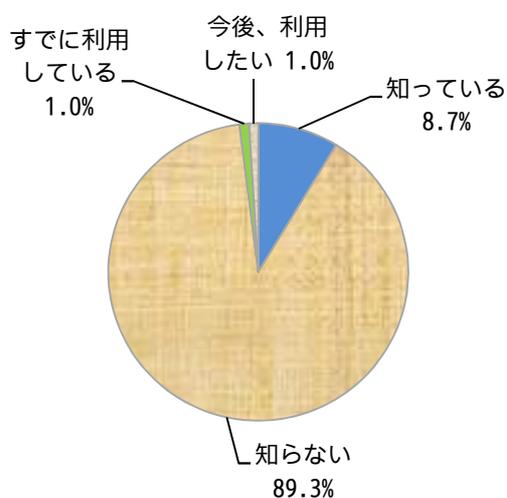
問15 ヘルプマークを知っていますか？あてはまるものを1つ選んでください。
【1つ選択】

選択肢	回答率
知っている	12.9%
知らない	85.1%
すでに利用している	0.3%
今後、利用したい	1.7%



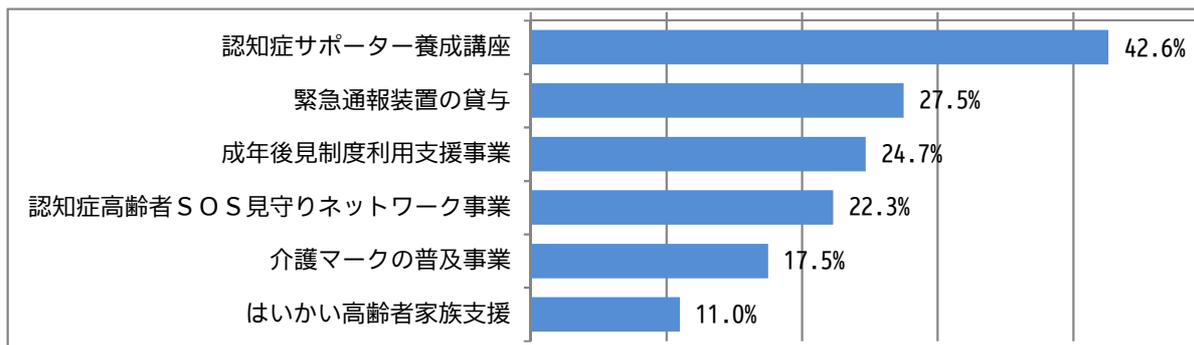
問16 郡山市が配信している手話動画講座を知っていますか？あてはまるものを1つ選んでください。【1つ選択】

選択肢	回答率
知っている	8.7%
知らない	89.3%
すでに利用している	1.0%
今後、利用したい	1.0%



問 1 7 高齢者の生活の安心安全を向上させる制度のうち、あなたが知っているものは何ですか？あてはまるものを全て選んでください。【複数選択可】

選択肢	回答率
認知症サポーター養成講座	42.6%
緊急通報装置の貸与	27.5%
成年後見制度利用支援事業	24.7%
認知症高齢者SOS見守りネットワーク事業	22.3%
介護マークの普及事業	17.5%
はいかい高齢者家族支援	11.0%



問 1 8 地域福祉や保健福祉行政に対する御意見等がございましたら、御自由にお書きください。【自由記述】

※主な自由意見

- ・福祉サービスは、知っている人が要求すれば受けられるが、知らない人は何もサービスを受けられないように思われる。全ての市民に等しく情報を伝えるのが、行政の役割だと思う。
- ・地域の住民が自分たちで出来ることをやり、出来ないことを行政に手伝ってもらう形が良いと思います。
- ・障がい者手帳を所持していても、制度を知らずに不自由な思いをしている人を多く見かけます。私は同病の人とサークルを作り食事会などをして情報交換をしていました。（最近が高齢と体調の関係で食事回数が減りましたが、以前は福祉バスで旅行も楽しんでいました。）そこで、手帳について詳しく知らない人達に、もっと説明をしてほしい。また、障がい者間の交流の場を作ってほしい。
- ・町内会活動さえ崩壊しつつある現状で、地域の結びつきは弱まる一方だ。福祉にたよらない「健康長寿」な市民を増やすべく、予算措置にもっと取り組むべき。
- ・介護を受ける状態になる不安を解消してほしい。
- ・今回知らないことがとても多いことに気がつきました。
- ・福祉は自分や家族が利用しないと知らないことが多いです。積極的な広報活動をお願いいたします。
- ・現在、隣近所が助け合う時代ではないと思います。ボランティアではなく、行政や委託等で派遣するなど、福祉制度の充実を図るべきだと思います。
- ・超高齢化社会、町内会ごとの福祉・ボランティアの充実強化、いつまでも自宅で安心して暮らせる街づくり。
- ・地域の公民館などで、もっと健康・福祉などについての講座や勉強会を増やしてほしい。保健所や医師が地域公民館へ出向いて分かりやすい講習会を行うべき。